

「墨田区都市計画マスタープラン」改定区民ワークショップ

平成19年度

第3回 ワークショップの概要

■第3回ワークショップの概要

◎テーマ：テーマ／分野別の検討②

◎日時：2007年6月7日 19:00～21:00

◎会場：墨田区役所 13階 131会議室

第2回ワークショップで検討の足がかりとなるテーマを設定したグループもありましたが、第3回ワークショップでは、都市計画マスタープランの分野別構想にあわせた「防災」「定住」「環境」「景観」「産業」の5分野をイメージしながらさらに検討を進めました。

総勢29名が、グループ毎に様々なアプローチで熱心な意見交換が行われました。

■当日の流れは・・・



前回作業のまとめを見ながら
「方向性が見えてきたかな」



分野毎に出てきた意見を集めながら
検討を進めています



横軸に分野を並べた表をつくって
検討し忘れがないか確認しています



本日のまとめの発表より「具体の通りを選んで
デザインまで考えてしまいました」

■次回の予定は・・・

次回で平成19年度の検討作業は一区切りをむかえます。これでお終いという訳ではありませんが、これまでの検討内容をまとめる作業を行います。

(注) ワークショップは事前に参加登録をいただいた方にお集まりいただき、これからのまちづくりと20年後の墨田区の将来像について検討しています。参加登録をしていないけれどもワークショップの内容や検討中の案に対するご意見・ご感想・お問い合わせなどがあるという方は toshikeikaku@city.sumida.lg.jp (墨田区都市計画課) までご連絡ください。

■Aグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Aグループ：荒川沿いの墨田・八広地区に堤通・東向島地区の一部を加えた、おおむね明治通り以北の区の北端部に位置するエリア



Aグループでは、道路、建物、敷地（外構）、緑という視点から検討を進めました。前回に引き続き路地のまちづくりを中心とした話題になったため、今回は幹線道路のまちづくりについても同様の検討を行うこととしました。



～道路 路地の重要性を考えてみよう～

- 路地を拡幅活用する（cf.月島ルール）
- 舗装をバリアフリー対応に（高齢者の方も安全・安心な住宅地に）
- 自動車を入れる⇔入れない（多少の不便は我慢）

～建物～

- 道路幅に対応した建物高さを決める
- 歴史を感じるものを見本として地域につくる（～風のデザインは×）
- 色の調和（屋根だけでも色を統一すると◎）

～敷地（外構）／緑～

- 塀は原則つからない／緑の活用 など

■Bグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Bグループ：東向島・向島・京島といった密集市街地のまちづくりと曳舟・押上・業平橋といった大規模開発が並んだ区の中央部に位置するエリア



Bグループでは、まちを歩いた際に見つけた特徴的な道を何本か選んで、舗装のイメージや沿道の景観、車の通行など、“みち”について具体的な課題から検討を進めました。



～道路の舗装について～

- 歴史を感じさせる石畳や苔のイメージはどうか
- まちのを冷ます透水性や保水性がある舗装
- ⇒「隙間を空けて石材を並べて、石の間には苔がむしたりタンポポが生えるようなイメージ」

～沿道の景観～

- 緑が連続した街並みが良い
- 建物のデザインなどをルール化する
- ⇒壁の○%以上を緑化する／塀をつくる場合には 生垣にする／植木鉢の統一 など
- ⇒建物の色の統一／長屋のイメージ など

～その他～

- 一方通行でゆっくり歩ける道に／電柱はなし
- 学校や広場、空き地などを使って人を呼び込む

■Cグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Cグループ：小村井、東あずまの2駅を中心に広がる立花・文花地区に旧中川で結ばれた東墨田地区を加えた、区の東端部に位置するエリア



Cグループでは、これまでの検討で欠けている内容について、分野ごとに提案をまとめた表を使って確認を行ったほか、旧曳舟中周辺など地域の拠点となりそうな場所に関するまちづくりのアイデアを出し合いました。



～スポーツ健康センター周辺（東墨田地区）～

- 拠点施設と周辺の施設を結びつける
- 子供や親子がやってくる仕掛けをつくる
- ⇒自転車ルートの整備/木下川小学校を環境学習の場に/清掃工場の煙突の魅力UP（ライトアップ/模様やキャラクターを描く）

～旧曳舟中周辺（文花地区）～

- 押上に移る環境学習館の跡をどうするか
- 緑の学習園から地域の緑化を広げていけないか
- 文教拠点として“学習”をテーマにしてはどうか
- ～拠点を繋げるアイデア～
- 北十間川～旧中川を水上 Gondola でつなぐ
- フラワーポット等を並べて緑でつなぐ

■D1グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D1グループ：両国駅周辺から、両国・本所・吾妻橋にわたる、概ね北を北十間川、東を大横川親水公園までを範囲とするエリア



D1グループでは、自転車や徒歩を利用した観光ルート/ゾーンの話が特に盛り上がり、提案のアイデアがいくつか生まれました。当初予定していた新タワー関連の検討については、次回改めて検討することにしました。



～道路の使い方の見直し（観光・環境・景観）～

- 隅田川～北十間川～大横川親水公園から北斎通りというルートができると良い
- 自転車の通行に危険を感じることがある
- ポプラの木は掃除が大変/あまりきれいでない
- ⇒道路の使い方を見直して自転車ゾーンや街路樹の設置を（→ケヤキなど見栄えの良いものに）
- ⇒幹線道路内側を歩行者・自転車の優先ゾーンに
- ～公園の活用（防災）～

- 公園が少ない/あっても汚いイメージがある
- 子供が安心して遊べない
- ⇒既存公園のリニューアル→人が集まりコミュニケーションが生まれれば防災・防犯力の強化に
- ⇒防災の拠点にできるような公園の整備

■D2グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D2グループ：錦糸町駅周辺から、錦糸・業平にわたる、概ね北を北十間川、西を大横川親水公園までを範囲とするエリア



D2グループでは、第2回から引き続き新タワーの建設に向けた大横川親水公園の整備や碁盤の目の道路の活用について議論を行ったほか、分野ごとに提案をまとめた表を使ってその他の内容を検討しました。



～大横川親水公園の整備～

- 新タワー周辺のルートが貧弱
- ⇒親水公園を軸にしたルートづくり
- ⇒釣り堀を子供達の体験の場にできないか
- 浅草との連携／めぐりんとの連携を検討する

～碁盤の目の道路の活用～

- 道路を水と緑のラインにしよう
- ⇒より多くの道路を水と緑の場に(→線から面に)

～分野別の検討ほか～

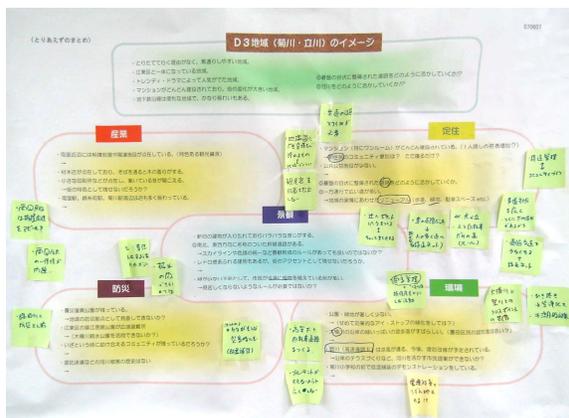
- 墨田区全体の案内板を整備する
- 巨大なJT敷地を将来は公園にできないか
- 河川を防災井戸に代わる災害時の貯水機能に
- 両国・錦糸町を結ぶ軸の賑わい回復(若者が集う広場)

■D3グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D3グループ：菊川・立川・緑を中心とする、概ねJR線路または縦川／首都高速道路以南の区の南端部に位置するエリア



D3グループでは、主に「定住」「景観」「環境」の3分野を中心に、第2回までの内容を進める検討を行いました。特に、公園緑地が少ない地域なので、道路や河川を使ってそのような場所をつくるという提案がでてきました。



～公園や河川に関する提案(定住・環境・景観)～

- 幹線道路は住民にとって便利な道路ではない
- 公園緑地が不足している地域である
- ⇒車の入らない道路をつくって緑地や自転車道として活用する
- ⇒辻に緑地をつくる(憩いの場/アイストップに)
- ⇒大横川と縦川の交点をきれいにする
- 町会の結束力が強い地域
- ⇒地元の希望を聞いて整備を行う→自主管理へ

～その他の提案(産業・防災)～

- 両国駅周辺の一体性が不足している
- ⇒相撲部屋を中心にアピールしてはどうか
- 隅田川に防災栈橋を設置する
- 豊川の高架下に自転車道路を整備する